

# 論文

## ゼッキノー・ドーロ

(イタリアの子供の歌のコンテスト)

—そのあらたな展開

前 川 滋 子

### 序文

1. 国際児童音楽祭への発展
  - a) ユニセフとの提携
  - b) コンテストの方法の変化
  - c) コンテストの期日の変更
2. 入賞曲(外国曲)の国名一覧
3. 外国の子供の歌に関する諸問題
  - a) 曲の選定と歌手の選出
  - b) 歌詞の翻訳について
  - c) 編曲について
  - d) 日本の歌の参加
4. 第18回から第25回までの主な出来事
  - a) 国際児童年を迎えて
  - b) ゼッキノー・ストーリー
  - c) 第25回記念大会

### 結び

第18回から第25回までの入賞曲一覧

## 序

1982年11月18・19・20日の3日間、ゼッキーノ・ドーロの第25回大会が行われた。

ボローニアのアカデミー・アントニアーノ（注1）のテレビスタジオには観客があふれ、ライトと拍手と歓声の交錯するなかで、興奮に包まれたまゝ、コンテストは続けられた。それは、もう24年も続いている手なれた催しというよりは、まるで今はじまったばかりのような、みずみずしい感動にあふれた歌祭りであった。何事もうつろい易い現代にあって、その小さいかにも手作りの感じの強い催しが、質的には高い水準を保ちながら、25回も続けられたこと、そして、これからも続けられるであろうことに考えが及んだ時、不思議な感動にとらえられたのであった。

ゼッキーノ・ドーロの主催者であるアントニアーノの人々は、17回までの歌祭りの成果を、次のように評価している。<sup>(1)</sup>

(1) 年1度の恒例の行事となり、多くの人々の期待を集めている。

(2) 膨大な量の子供の歌を創り出した。それらの歌は、幼児やその家族に喜ばれているばかりでなく、小学校の教材や、大学、研究所の研究教材としても用いられている。

(3) 子供の歌について、世の関心をたかめることに役立った。出版社や作家達は、子供の歌の分野でのポピュラー音楽の存在に心をひかれ、よい作品が作られるようになった。すべて、アントニアーノの活動に刺激をうけたためである。

(4) 子供のためのポピュラー音楽の分野で、イタリアは断然優位に立った。テレビとラジオを通しての催しであったので、非常に多くの人々に親しまれることになった。ことに東ヨーロッパの子供達に歓迎されたこと、日本での「黒猫のタンゴ」の大ヒットなど、歌の普及範囲の広い事も誇りである。

以上の自己評価のもとに、第18回から国際音楽祭に発展して行くのであるが、今回は、ゼッキーノ・ドーロの第18回から第25回までをとり上げて、国

---

（注1） 宗教法人、付属の芸術アカデミーを持つ。

国際化にふみ切ったこの催しの新しい足跡を辿りたいと思う。

## 1. 国際児童音楽祭への発展

1976年3月、ボローニアのアカデミー・アントニアーノで、第18回のゼッキノー・ドーロの大会が行われた。1959年に始められたこの歌祭りも、18才、人間でいえば「成年」に達したわけである<sup>(2)</sup>。そして、この第18回から、「国際児童音楽祭」(Rassegna Intennazionale di Canzoni per Bambini)という副題のもとに、イタリア以外の国々からも子供の歌を募集することになった。国際化への第1歩が印されたわけである。

国際化への願いは、アントニアーノの人々が以前から抱いていたものであった。その理由は、新鮮な素材を求める必要と共に、ゼッキノー・ドーロの成果を、より広い舞台の上で眺めるためであった。国際化を行うために、各国の子供の歌の事情を調べた結果、アントニアーノの人々は、大変に嬉しい事実を発見した<sup>(3)</sup>。ゼッキノー・ドーロからうまれた歌が、多くの国々に伝えられ、その国の言葉に翻訳されて、親しまれていたのである。時として、その国の伝承曲よりも親しまれていることもあった。さすがに、ディズニーの作品にはかなわなかったが、その思いがけない人気の高さに、人々は自信をつよめ、ゼッキノー・ドーロの成年にあわせて、国際化への第1歩がふみ出されたのであった。

### a) ユニセフとの提携<sup>(4)</sup>

1976年は、ユニセフ設立30周年記念の年でもあった。ユニセフのヨーロッパ支局では、アントニアーノに提携を申し入れ、第18回から、ゼッキノー・ドーロはユニセフの後援のもとに行われることになったのである。アントニアーノは、難民の救済をその事業の1つとしている。ユニセフとアントニアーノは、世界中の恵まれない子供達を救うという共通の目的のために手を携えることになった。それによって、アントニアーノは、ゼッキノー・ドーロの催しに一層の社会的意義を加えることになり、ユニセフは、その活動目的を広く世界の人々に知らせるために、絶好の舞台を得ることになった。なお、

第18回大会には、ユニセフ特使として有名な女優ジュリエッタ・マシーナ（Giulietta Masina）が来場して、華やかな幕開けとなった。

#### b) コンテストの方法の変化

国際化に伴うコンテストの方法の変更は下記の通りである。

(1) コンテストに参加する12(14)曲のうち、半数を外国作品とする。

(2) 外国曲の歌詞は、イタリア語に翻訳したものをを用いる。

(3) 外国曲の歌い手は、原則として、イタリア在住の外国人の子供達の中から選ぶ。(本国から直接派遣される場合もある。)

(4) 3日間の大会のうち、第1日目はイタリア曲のみのコンテストとし、最高得点の曲にゼッキノー・ダルジェント(Zecchino d'Argento)が与えられる。第2日は外国作品のみで、最高得点の曲にゼッキノー・ダルジェントが与えられる。第3日には全作品が参加して、最高点を得た曲にゼッキノー・ドーロ(Zecchino d'Oro)が与えられる。

第18回大会では、<sup>(5)</sup>期間中にゼッキノー・ダルジェントだけを選び、ゼッキノー・ドーロは、テレビ中継をみた世界中の子供達の投票を集計して決定するという方法をとった。従って、ゼッキノー・ドーロが決定したのは、春の大会から9ヶ月後のクリスマスになってしまった。この方法は第19回からとり止めとなり、3日間の大会期間中にすべての賞が決定されることになった。

大会の冒頭に、テーマ曲「チャオ・アミーコ」(Ciao Amico, やあ、今日は)がうたわれる。イタリア語のほかに、フランス語、スペイン語、英語、ドイツ語、オランダ語、ロシア語の歌詞で歌われること、ユニセフ代表のメッセージも各国語に翻訳されて、それぞれの国を代表する子供達がそれを朗読することなど、国際大会にふさわしい儀式がとり入れられている。大会に日本の曲が登場した時には、イタリア在住の日本人の子供が、日本語に翻訳されたメッセージを読むことになる。

#### c) コンテストの期日の変更—(年2回のゼッキノー・ドーロ)

第19回のゼッキノー・ドーロから、大会の期日が秋になった。元来、第1回から第3回大会までは、秋9月に行われていた。<sup>(6)</sup>それが春に移されて、聖

ヨセフの祝日（3月19日）を中心に行われるようになったのであるが、春の開催には、様々の問題があった。3月は、社会的に年度後半になるため、会社や学校等のスケジュールとの調整が困難であった。ポピュラー音楽の作詞、作曲家達は、ゼッキーノ・ドーロとサン・レモ音楽祭の期日が接近したために、仕事の調整に苦労したこともあった。その上、1976年には、肝心の聖ヨゼフ祭の公式行事が中止されたので、3月に大会を開く理由がなくなってしまった。クリスマスをはかえて、11月の方が、レコードの販売に条件が良いとも考えられた。かくて、19回のゼッキーノ・ドーロの大会は、1976年11月に開かれることとなり、1976年に限って年2回の大会が行われることになってしまった。関係者は多忙をきわめ、大会の運営に困難が予想されたが、非常に質の良い作品が集まり、とくに外国の作品にすぐれたものが多く、内容のゆたかな歌祭りとなった。新しい道を辿り始めたアントニアーノがめざす二つの目標——すなわち、国際化とユニセフの宣伝機関となるという二つの目標は、十分に達成されて、関係者を安堵させた。

1976年の2回の大会は、決して無駄なことではなかった。むしろ、それ以後の着実な成長のために、大切な基礎を固めることになったのである。

## 2. 第18回から第25回までの入賞曲（外国曲）の曲名一覧

イタリア曲、外国曲とも、曲名・作詞・作曲家は、巻末の一覧表<sup>(7)</sup>に記載した。こゝには、国名のみを記す。

カナダ	1977年（20）		
アメリカ	1976年（19）	1979年（22）	1981年（24）
メキシコ	1978年（21）		
アンティル諸島—西インド諸島（キュラソー島）	1976年（19）		
ヴェネズエラ	1976年（18）		
コロンビア	1980年（23）		
ペルー	1977年（20）		
ブラジル	ク	ク	

チリ	1982年 (25)	
アルゼンチン	1979年 (22)	
日本	1976年 (18)	1982年 (25)
フィリピン	1981年 (24)	
中国	1980年 (23)	
オーストラリア	1978年 (21)	
インド	〃	〃
パキスタン	1979年 (22)	
イラン	1977年 (20)	
エチオピア	1979年 (22)	
スーダン	1978年 (21)	
ウガンダ	1981年 (24)	
ナイジェリア	1976年 (19)	
セネガル	1980年 (23)	
ギリシャ	1977年 (20)	
ブルガリア	1980年 (23)	
ルーマニア	1979年 (22)	
ユーゴスラヴィア	1976年 (18)	
ハンガリア	1978年 (21)	1982年 (25)
オーストリア	1980年 (23)	
チェコスロヴァキア	1976年 (19)	
ポーランド	1977年 (20)	
西ドイツ	1976年 (19)	
オランダ	〃	(18)
ベルギー	1982年 (25)	
フランス	1976年 (18)	
スペイン	〃	(19) 1981年 (24)
ポルトガル	1978年 (21)	1980年 (23)

イギリス	1976年 (18)	
マルタ島	1982年 (25)	
スエーデン	1979年 (22)	
フィンランド	1981年 (24)	
ソヴィエト	1976年 (18)	1982年 (25) 計41ヶ国

ヨーロッパ・アジア・アフリカ・南北アメリカ・オセアニアの各地域からひろく歌をもとめる方針であるから、参加国の数が多い。スペイン・ポルトガル・南アメリカの諸国のように、カトリック教の国々からばかりでなく、共産圏の国々からも、イラン・スーダン・パキスタンなどのイスラム教徒の国々からも、こだわらず歌をあつめている。とくに、長い対立と紛争の歴史を持つイスラム諸国から、カトリック教会の主催する催しへの参加は、意味深いものがある。たのしい歌祭りを通じて、アントニアノーは国連の協力機関としての役目を十分に果しているのである。

#### 4. 外国の子供の歌に関する諸問題

##### a) 曲の選定と歌手の選出

イタリアの子供の歌で、ゼッキノー・ドーロに参加出来るのは、新しい未発表の曲に限られているが、外国の歌の場合は、伝承曲として、国民の誰もが知っている曲がえらばれている。イタリアの歌とは採用の基準が全くちがうのである。イタリア曲の場合は、伝承曲にはない新鮮な感覚が要求されるが、外国曲の場合は、その国特有の表情を求められる。外国曲を通して、多様な音楽語彙を吸収し、イタリアの新しい子供の歌をつくるために役立てようとしているのである。また、イタリアの歌と外国曲を比較することで、イタリアの歌に対する正しい評価を下そうとしている——それも、すぐれた子供の歌を作るために必要なことである。もちろん、国連の協力機関として、音楽を通じて各国の文化を摂取し、民族間の交流をはかるという大きな目標を見失っているわけではない。しかし、イタリアの子供達に新しい感覚の良い歌を与えたいという願いから出発した歌祭りであるから、外国曲の導

入も、その当初からの目標を達成するために役立つものでなければならない。選曲に対する真剣な姿勢から、その意図をうかがうことが出来る。

もっとも、外国から伝承曲を多くとり入れるのは、今までのところ、直接に応募して来る作品がすくなくて、むしろ蒐集という形で作品をもとめていることにも原因があると考えられる。外国曲の選曲と歌手の選出には、大体、次の様な方法がとられている。

(ア) 外国の放送曲から、直接に歌と歌手が派遣される。——例えば、1980年第23回には、ポルトガルの国営放送が HO VISTO UN ROSPO (ひきがえるをみた) を提供した<sup>(8)</sup>ポルトガルで、ゼッキーノ・ドーロと同様の催しを行い、その優勝曲と優勝した歌手を直接派遣して来たのである。

(イ) 出版社から曲を提供される<sup>(9)</sup>

(ウ) イタリア在住の外国人から曲を提供されたり、曲に関する情報を提供される<sup>(10)</sup>。歌手である子供の家族から情報を得ることも多い。日本の代表の場合も、その最後の例にあてはまる。

歌手は、ポルトガルの場合のように本国から派遣されたり、まれに大使館の推薦によることもあるが、ほとんど、ローマ市を中心に、外国人学校の生徒達から選ばれる。イタリア人の歌手の場合は、各地での予選を通過した後に、アントニアノーで最終選考が行われるのであるが、外国人の場合は外国人小学校で小さなオーディションが行われたり、学校の先生に推薦されたりして、1人ずつきまってしまうようである。第18回に登場して「てるてるぼうず」を歌い、みごとにゼッキーノ・ダルジエントを与えられた栗國純君は、ローマ在住の高名な演出家、栗國安彦氏のご子息で、第25回に登場した二澤真彦・佳子の御兄妹は、国連食糧農業機関に在職される二澤氏のお子様達である。発展途上国では、大公使館関係者の子弟が多い。めぐまれた環境で、祖国の文化を大切に守っている家庭の子女が多いようである。

歌と歌手の選出は、マリエレ・ヴェントレ (Mariële Ventre) 女史 (注2) が中心になって行われるが、彼女は、ローマやミラノに何度も足を

---

(注2) ゼッキーノ・ドーロの音楽総監督。合唱団の指導者。



運び、オーディションに立会って、慎重にその仕事に当たっている。イタリアのお国柄というのであろうか、厳格な応募規定に依らず、良い歌と良い歌い手に出会ったら採用するという方針のようである。

#### b) 歌詞の翻訳について

ゼッキーノ・ドーロに参加する外国曲は、イタリア語の歌詞で歌われ、原詞は一節だけ挿入される。歌詞の翻訳に当るのは、ゼッキーノ・ドーロの常連となっている作詞家達である。とくに、アルベルト・テスト (Alberto Testa)、ルチアーノ・ベレッタ (Luciano Beretta)、ルチアーノ・ステルペローネ (Luciano Sterpellone)、ジョルジオ・カラブレーゼ (Giorgio Calabrese) の名前が目立つ。(巻末の一覧表参照)

翻訳は必ずしも原詞に忠実とは云えない。NHKの「みんなのうた」の場合と同様、歌詞の一部分を変更しているものからほとんど創作に近いものである。日本から参加した「てるてるぼうず」は原作に依りながらもかなり改作されている例で、<sup>24</sup>原詞とイタリア語訳をくらべると次のようになる。

#### 原詞

#### イタリア語訳 <sup>24</sup>

てるてるぼうず てるぼうず

あした天気にしておくれ

いつかの夢の空のように

晴れたら金の鈴あげよう

てるてる坊主 てる坊主

あした天気にしておくれ

私の願いをきいたなら

あまいお酒をたんとのましょ

てるてる坊主 てる坊主

あした天気にしておくれ

それでも曇って泣いてたら

てるてるぼうず てるぼうず

お天気にしておくれ

雨が降らないようにしておくれ

ちっちゃなバラ色の雲が1つ浮ぶだけの  
きれいな青空になるでしょう

と云っておくれ

てるてる坊主 おねがいだ

お前は私よりちいさい人形だけど

曇って雨が降って来たら

お空をにらんで

すぐに雨を降り止ませておくれ

そなたの首をチョンと切るぞ

歌詞の翻訳を担当したフランコ  
マレスカ (Franco Maresca) は  
長い間、ゼッキーノ・ドーロで活  
躍し、その時まで15曲も入賞し  
ている作詞家である。日本人家族  
の協力を得て、歌詞の内容を充分  
理解しての翻訳であるが、宗教上  
の制約から「あまいお酒」という  
言葉が消され、「首を切るぞ」と  
いう表現は原語のまま残されてい  
る。

全体として、原詞のもつ素朴な  
美しさが失われているばかりでな  
く言葉のひびきから透明感がなく  
なっている。

第23回の「マルコ・ポーロ」(MARCO POLO)は、中国の伝承曲である。  
「マルコ・ポーロは中国へやって来た。大ハーン(フビライ)の宮廷に来て  
お米とスパゲッティをみつけた」というたのしい言葉で始められている<sup>13)</sup> 訳  
詞を担当したのはルチアーノ・ベレッタであるが、これはもう創作と云って  
もよい。原詞に忠実な翻訳が難しいものとやさしいものがあって、それぞれ  
に対応の仕方が違うのはやむを得ないことかもしれない。日本にとり入れら  
れたゼッキーノ・ドーロの歌の例を思い浮べても、同様の苦労がうかがわれ  
る。「黒猫のタンゴ」は大ヒットしたが、日本語の歌詞からは、原詞のあど  
けない美しさが失われてしまった。それにつれて曲の表情も変化している。  
子供の歌の場合、歌詞は言葉の持つ独特の感覚に頼る部分が多いだけに、適  
切な訳詞を見つけることが困難なのである。しかし、それでも外国の歌をと

てるてる坊主 てる坊主

私は上等の絹の傘を持っているよ  
あした天気にしてけると約束する  
なら そのかわいらしい傘を  
お前にあげよう

てるてる坊主 てる坊主

私達の願いをよくおきき  
もし 明日も雨だったら  
お前から傘をとりあげてしまうよ  
お前はぬれていなさい

日本語

てるてる坊主 てる坊主

あした天気におくれ  
それでも曇って泣いてたら  
そなたのお首をチョンと切るぞ

り入れなければならない。音楽が、言葉の垣根をこえて人々の心を動かし、すこしずつでも、言葉にならない言葉を伝えて行くであろうと信ずることができるからである。

#### c) 編曲について

外国の伝承の歌を編曲して、それにオーケストラによる伴奏をつけるのはジョルダノー・ブルーノ・マルテッリ (Giordano Bruno Martelli) の仕事である。もちろん、ゼッキノー・ドーロで活躍している他の作曲家も協力しているが、マルテッリが中心である。彼は、ゼッキノー・ドーロ最多入賞の作曲家でもある。彼は、柔軟な姿勢で各国の曲を迎え、曲のもつ独特のリズム感をとらえ、楽器の編成にもすぐれた感覚を示して、編曲者としてのセンスの良さを称賛された。<sup>44</sup>「てるてる坊主」でも、「かわいい魚屋さん」でも、原曲のもつ独特のリズムがよくとらえられていて、日本人による編曲かと思われるほどである。ただ、最後に銅鑼を思わせるシンバルの音が1つ入るのは、全体の印象を重くしてしまっていて、逆効果である。

これは余談であるが、オーケストラは大会に出場しない。第15回から、あらかじめ、テープに吹きこんだ伴奏が会場に流され、子供たちはそれにあわせて歌うのである。しかし、伴奏のテープをきいていると、メンバーの1人1人がいかにもたのしみながら演奏している様子がうかがわれて、彼等の1人1人の表情を、会場で眺めたいものだと思う。それに、民俗楽器を伴奏部分にとり入れた歌もあるので、会場でその演奏をきくことが出来れば、一そう興味をそそられることであろう。アントニアノーの小オーケストラの大会出演が、切に望まれるのである。

#### d) 日本の歌の参加について

第18回には「てるてる坊主」が、第25回には「かわいい魚屋さん」が入賞した。とくに、「てるてる坊主」は、外国曲の部門で1位となった。国民のだれもが知っていて、長く愛唱されて来た歌の中でも、すぐれた曲である。しかし、日本では、第二次大戦後子供の歌に対する考え方が大きく変化し、あたらしい感覚のすぐれた子供の歌が数多くつくられている。子供の世界の

愛唱歌として定着したものも少なくないはずであるが、それが登場しないのは残念である。ゼッキーノ・ドーロからうまれた歌のように、人々の日常生活にとけこんでいく親しみやすさが足りないのであろうか。

## 5. 第18回から第25回までの主な出来事

### a) 国際児童年を迎えて

1979年は国際児童年であった。ユニセフの宣伝機関として、ゼッキーノ・ドーロの催しは一そうの意義を加えたのである。ユニセフ代表のメッセージにも、例年以上の熱意がこめられていた。

その前年、1978年、第21回の大会に、ヨーロッパの国際児童年事務局の代表がアントニアーノを訪れて、第21回大会を国際児童年開幕記念の公式行事にしてしまった<sup>⑤</sup> さらに1979年、第22回大会は、国際児童年の理想とするところを世界中の人々に訴えるために開催された。ステージの背景には、世界中の子供たちがわけへだてなく遊ぶ楽しい風景が描かれていた<sup>⑥</sup> 外国からの参加曲は、世界の五大大陸を代表して、アメリカ、アルゼンチン、エチオピア（エリトリア）、パキスタン、ルーマニア、スエーデンの歌が選ばれた<sup>⑦</sup> その中には、多くの子供達が飢餓や病気になやまされている国もあるので、児童年に始まった運動を絶やすことなく続けるよう、関係者達はあらたな決意を以て、世界中の人々に協力をよびかけたのである。

### b) ゼッキーノ・ストーリー

1978年11月から翌79年9月にかけて、（恰度国際児童年に当たるが）ゼッキーノ・ドーロの回顧番組がテレビで放映された<sup>⑧</sup> 主催者はアントニアーノとアンテナ・トレ・ロンバルディア（Antenna Tre Lombardia）というテレビ局で、アントニアーノとテレビ局のスタジオを結んで行われた。出演者はアントニアーノではピッコロ・コーロ、（注3）アンテナ・トレでは、テレビ局で選んだコーラスの子供達で、司会の役は、アントニアーノ側はピッコロ

---

（注3） アントニアーノ付属の少年少女合唱団。

・コーロのリーダー、テレビ局側はチーノ・トルトレッラ（注4）（Cino Tortorella）が担当した。30回以上ものテレビシリーズで、全体は3部にわけられる。第1部では、21回分の入賞曲250曲のうち、1回毎に2曲ずつ選び、42曲が選出された。第2部では14曲、第3部で10曲と上位入賞曲を残して行って、グランド・フィナーレで、1位と2位の曲にゼッキニッシモ・ドーロ（Zecchinissimo d'Oro）が与えられた。

ゼッキニッシモ・ドーロを与えられたのは、第1回（1959年）の「ピノキオへの手紙」（LETTERA A PINOCCHIO）と、第4回（1962年）の「前歯をはやしてね」（FAMMI CRESCERE I DENTI AVANTI）の2曲であった。

入選曲の選定は、ピッコロ・コーロのメンバーと、アンテナ・トレの集めたコーラスのメンバーとの投票で決定された。第1部では、アンテナ・トレのメンバーが歌って、ピッコロ・コーロの子供たちが投票し、第2部では、ピッコロ・コーロの歌をきいて、アンテナ・トレの子供たちが投票するという方法を交互にくり返して、上位2曲が決定した。いずれもイタリア曲で、外国の歌は、ベストテンに残らなかった。

9ヶ月にわたるテレビシリーズを通じて、ゼッキーノ・ドーロのなつかしい歌がくり返し歌われ、人々の人気を集めた。また、かつて独唱者をつとめた子供達が、立派に成人した姿でアントニアーノを訪れ、感動的な里帰りを果したのであった。

#### c) 第25回記念大会

1982年は、ゼッキーノ・ドーロの第25回記念大会の年であった。日本でもゼッキーノ・ドーロと同様の催しを行って、その優勝者を参加させるという計画もあったが、実現せずに終ってしまった。しかし、25回目ということでアントニアーノの関係者は、なお一層熱心に大会の準備を進めたようである。前年の第24回大会から、第1日から第3日まですべてテレビ中継されることになったので、第25回も第1日と第2日はライ（RAI イタリア放送協会）に

---

（注4）ゼッキーノ・ドーロの司会者、俳優。

よって、イタリア国内に向け放映され、第3日はユーロ・インテルヴィジョン (Euro-Intervisione)で全ヨーロッパに中継された。司会者も、総司会のチーノ・トルトレッラのほかに、ライから派遣された男女の司会者が開幕を飾って、はなやかな大会となった。

入賞曲は、例年通り12曲であるが、イタリアの6曲は、前年にくらべて華やかな表情を持っている。ただ、第23回1980年の「ロックとロールのものがたり」<sup>(19)</sup> (LA VERA STORIA DI ROCK E ROLL) のような大ヒット曲になりそうな作品は、見当らない。外国曲では、はじめてマルタ島の代表が入賞して、注目を集めていた。入賞曲「小鳥のうた」<sup>(20)</sup> (IL MERILL TWEET TWEET) は、清潔で無邪気な美しさを評価された。ソ連の入賞曲「旅音楽師」(MUSICANTE GIRAMONDO)を歌ったのは、第9回1967年の優勝曲「ポポフ」(POPOFF)を歌ったヴァルテル・ブルジョーロ

(Valter Brugiolo) の長男アンドレイ (Andrey)であった。アントニアノの人々にとっては、初孫と対面したような状況なのである。ゼッキーノ・ドーロの催しが、いつかそのように年を重ねて来たということなのであろう。

「旅音楽師」は短調の美しい曲であるが、それにもまして、アンドレイの歌唱力のすばらしさが、人々の称賛の的となった。彼の出現は、まことに第25回を飾るにふさわしい記念すべき出来事であった。日本の代表は、「かわいい魚屋さん」を歌った。年長の子供達には評価されたが、年少の審判からよい点を得られなかった。歌も歌い手も個性が強くないと、会場の賑やかな雰囲気になてしまう。

## 結 び

ゼッキーノ・ドーロが成功した理由の1つに、テレビ等をたくみに利用したことが挙げられる。テレビへの対応は、ヨーロッパの教育界でも論議を呼んでいるが、<sup>(21)</sup>ゼッキーノ・ドーロは、テレビとラジオを通じて多数の子供たちやその家族と結びつくことに成功したのである。日本製アニメに脅威を感じているといわれ、チーノ・トルトレッラも新聞記者に向って「私はガンダ

ムにやられた」と語ったことがあるが、<sup>22</sup>25回大会の充実ぶりをみる限り、完全な敗北など考えられないのである。むしろ、問題はゼッキーノ・ドーロの運営そのものにある。テレビ録画のために時間の制約をうけるので、オーケストラの生演奏を伴奏テープに変えたり、時にはパレットによる投票を省略したり、細部の一見無駄と思われる動きを少しずつ削っていくうちに、その独得な表情が失われていく恐れがあると考えられる。大切な協力者でもあるテレビと、どこまで妥協して行けるか、その点が、アントニアーノの人々に与えられた重要な課題ではないだろうか。？

3回にわたって、ゼッキーノ・ドーロ25年の歩みを辿ってみた。足跡を追うのがせい一杯で、検討したい箇所に出合っても立ち止る余裕はなかった。次回には、また出発点に戻り、これまでの研究で興味をひかれたいくつかの問題について、考えてみたいと思う。

終りに、今回の研究に際し御指導と御協力をいただいた高田カトリック教会のタルチジオ神父、アントニアーノのベラルド・ロッシ神父、マリエレ・ヴェントレ氏、コロンビア・レコードの木村秀俊氏、石井昭氏、TBS映画社の藤原道夫氏、そして、日本ゼッキーノ・ドーロの代表として、日本でのゼッキーノ・ドーロの実現のため努力しておられる岡野弁氏に心から感謝の意を表する。

(まえかわ しげこ、幼児教育、音楽、リトミック理論)

18° ZECCHINO D'ORO 1976年3月17, 18, 19日

(prima edizione internazionale)

イタリア曲

題 名	作詞・作曲家
LA TERESINA ② ラ・テレジーナ	P. C.E.Trapini M. G.B.Martelli
QUATTROCENTOCINQUANTA BOTTONI ① 450個のボタン	P. Zodiaco e A.Amadesi M. R.Martini
IL PIRATA GAMBAMOSSIA 足のはやい海賊	P. F.Spadavecchia M. S.Chiesa
PADRE NOSTRO CHE SEI DAPPERTUTTO ③ 私たちのお父さんはどこにでも いらっしゃる	P. A.Testa M. W.Malgoni
SE MANCA PANE E VINO COSA FAI? パンとぶどう酒がなかったら どうするの?	P. G.Taddei M. Pilat
SETTE NOTE PER UNA FAVORETTA 童話のための7つの音	P. C.E.Trapini M. S.Giaccobe
SHOW NELLA FORESTA 森の中のショウ	P. F.Pacella M. G.Guarnieri e M.Remici

応募総数 163 入賞曲 7

②は、ゼッキーノ・ドーロ ③は、歌詞賞 { 18回の題名訳は「カンツォーネの歴史」<sup>(23)</sup>  
より引用  
①は、ゼッキーノ・ダルジェント



外国曲

題 名	作詞・作曲家
<p>日本</p> <p>TERU-TERUBOZU ㊦</p> <p>てるてるぼうず</p>	<p>P. 浅原鏡村</p> <p>M. 中山晋平</p> <p>訳 F. Maresca</p>
<p>フランス</p> <p>MAMMA TUTTO</p> <p>(Maman bonheur)</p> <p>しあわせのママ</p>	<p>P. J. Broussolle</p> <p>M. J. Kluger</p> <p>訳 A. Testa</p>
<p>イギリス</p> <p>BIG JIM</p> <p>Big Jim)</p> <p>ビッグ ジム</p>	<p>P. Meks e Radcliff</p> <p>M. Crotty</p> <p>訳 V. Melegani</p>
<p>ユーゴスラヴィア</p> <p>TICCHE TICCHE TACCHE</p> <p>(Tike Tike Tacke)</p> <p>ティケ ティケ タッケ</p>	<p>P. Djordje</p> <p>M. Navcovic</p> <p>訳 L. Beretaa</p>
<p>オランダ</p> <p>GUGLIELMO IL CASTORO</p> <p>(Hup daar is Willem)</p> <p>ビーバー ウィレム</p>	<p>P. L. Valkenier</p> <p>M. R. Bos</p> <p>訳 U. Napolitano</p>
<p>ソヴィエト</p> <p>VENTO VENTICELLO</p> <p>(Ti leti Veterok )</p> <p>春のそよ風</p>	<p>P. Prischelets</p> <p>M. V. Loktev</p> <p>訳 V. Pallavinci</p>
<p>ヴェネズエラ</p> <p>IL MUSICHITO</p> <p>(EI Musiquito)</p> <p>イル ムジキート</p>	<p>P. } Aldemaro Romero</p> <p>M. } L. Sterpellone</p> <p>訳 { A. Tarenzi</p>

外国曲 7 伝承的なもので子供たちに親しまれている曲

19° ZECCHINO D'ORO 1976年11月25,26,27日

(seconda edizione dell'anno)

イタリア曲

題 名	作詞・作曲家
GUGÙ, BAMBINO DELL'ETÀ DELLA PIETRA ② ググ、石器時代の子供	P. C.A.Trapini M. B.Mitchel
RICCARDO CUORE DI LEOPARDO ① 豹の心を持ったリカルド	P. Giba M. Canfora
ENCHETE PENCHETE PUFF TINÈ エンケーテ ペンケーテ プフ ティネ	P. } W.Valdi M. }
IL CORSARO NERO NERO 黒い黒い海賊	P. } S.Tuminelli M. }
MA CHE COSA CI POSSO FARE? どうしよう	P. Malgioglio e Janne M. P.Soffici
IL FIORE DI CITTÀ 街の花	P. F.Spavecchia M. S.Chiesa
LE API DEL CONVENTO 修道院のみつばち ③	P. L.Beretta M. R.Vantellini

応募総数 41 入賞曲 7

外国曲

題 名	作詞・作曲家
<p>西ドイツ ㉔</p> <p>NOZZE NEL BOSCO</p> <p>(Ein Vogel Wolte Hoch -heit Machen)</p> <p>森の結婚式</p>	<p>P. } Tradizionali</p> <p>M. }</p> <p>訳 F.Rossi</p> <p>編曲 G.B.Martelli</p>
<p>アンティル諸島(キュラソー島)</p> <p>NON PERDER LA PAZIENZA</p> <p>MAMMA</p> <p>(No perde cuidao mama)</p> <p>がまんしてね ママ</p>	<p>P. Oswin Behilia</p> <p>M. H.Van De Ree</p> <p>訳 F.Franchi</p>
<p>チェコスロヴァキア</p> <p>LIBERTÀ È UN PAIO D'ALI</p> <p>(Kocour Polka)</p> <p>はねがあればへいきよ</p>	<p>P. } Leontina Masinová</p> <p>M. }</p> <p>訳 A.Testa</p>
<p>ナイジェリア</p> <p>NON PIANGER,PICCINO MIO</p> <p>(Yoke omo mi)</p> <p>泣かないでぼうや</p>	<p>P. } Tradizionali</p> <p>M. }</p> <p>訳 L.Sterpellone</p> <p>編曲 G.B.Martelli</p>
<p>アメリカ</p> <p>SONO UNA TALPA E VIVO</p> <p>IN UN BUCO</p> <p>(The mole in the hole)</p> <p>穴に住むモグラ</p>	<p>P. C.André</p> <p>M. D.Wolf e R.Starr</p> <p>訳 S.Scandolarà</p>
<p>スペイン ㉕</p> <p>TORERO AL POMODORO</p> <p>(ElHijo del Torero)</p> <p>トマトだらけの闘牛師</p>	<p>P. Recad</p> <p>M. Jujuy e QuiqueroCa</p> <p>訳 L.Beretta</p>

20° ZECCHINO D'ORO 1977年11月10,11,12日

イタリア曲

題 名	作詞・作曲家
RUMBAKATUMBA ルンバ カトウンバ ㊞	P. Gino Creazzi M. C.Castellari
BIRIBIRIBINDI- -BIRIBIRIBINDA ビリビリピンディ ビリビリピンダ	P. Danpa M. G.Malgoni
FINCHÈ NON CADO DAL SONNO ねむらないようにしなくちゃ	P. L.Sterpellone M. Venturini
I CASTELLI DI BRISIGHELLA カードのお城	P. S.Tuminelli M. J.Perrotin
LA BUONA VOLONTÀ 親切 ㊞	P. } Bruno Lauzi M. }
NEL DUEMILA 21世紀には NHKみんなのうた 夢みてるわけじゃないよ	P. Ferdinando Pacella M. T.Martucci

応募総数 89 入賞曲 6

外国曲

題 名	作詞・作曲家
<p>カナダ ②</p> <p>I PESCATORI DEL CANADA</p> <p>(The Feller from Fortune)</p> <p>カナダの漁師</p>	<p>P. } Tradizionali</p> <p>M. }</p> <p>訳 L. Sterpellone</p> <p>編曲 G.B.Martelli</p>
<p>ポーランド</p> <p>RAPA-RAPANELLO</p> <p>(Rzepka)</p> <p>かぶら</p>	<p>P. } Tradizional</p> <p>M. }</p> <p>訳 L. Beretta</p> <p>編曲 G.B.Martelli</p>
<p>ブラジル</p> <p>SAMBA DELLA MIA TERRA</p> <p>(O Samba da minha terra)</p> <p>祖国のサンバ</p>	<p>P. } Dorival Caymmi</p> <p>M. }</p> <p>訳 G.Calabrese</p>
<p>ギリシャ</p> <p>DAI, DAI BALLA IL SYRTAKI</p> <p>(Come dance the Sirtaki)</p> <p>シルタキをおどりなさい</p>	<p>P. } G.Zambetas</p> <p>M. }</p> <p>訳 F.Spadavecchia</p>
<p>イラン</p> <p>HAGI FIRÚZ</p> <p>(Hagi Firúz Umadé)</p> <p>ハギー ファイルツ</p>	<p>P. Masud Mahmudi</p> <p>M. Mikhailian</p> <p>訳 V.S.Vitali</p>
<p>ペルー</p> <p>CAVALLINO PERUVIANO</p> <p>(Cavallo de paso)</p> <p>ペルーの仔馬</p>	<p>P. } Chabuca Granda</p> <p>M. }</p> <p>訳 A. Testa</p>

21° ZECCHINO D'ORO 1978年11月16,17,18日

イタリア曲

題 名	作詞・作曲家
ALIBOMBO ㊤ アリボンボ	P. } W.Valdi M. }
CALCIO CALCIO サッカーだ サッカーだ	P. G.Calabrese M. A.Martelli
E L'ARCA NAVIGAVA ノアの箱舟のおはなし	P. C.E.Trapani M. S.Giaccoobe
IL NASO FICCANASO おせっかい	P. M.D'Adda M. N.Aprile
PER UN CAPELLO IN PIÙ 髪の毛が1本ふえた	P. V.Magno M. G.Zilioli
UFFA GLI UFO あーあ UFO	P. M.D'Adda e T.Martucci M. N.Aprile

応募総数 104 入賞曲 6

外国曲

題 名	作詞・作曲家
<p>ハンガリー ㊟㊠</p> <p>CECKI! CECKI! ... AIH!</p> <p>(Szöke Kislány megy a kùtra, hajaha!)</p> <p>チェツキ チェツキ</p>	<p>P. } Tradizionali</p> <p>M. }</p> <p>訳 L. Beretta</p> <p>編曲 A. Martelli</p>
<p>オーストラリア</p> <p>IL' PIU' DEI CANGURI</p> <p>(Kangaroo song)</p> <p>カンガルーの中で1番</p>	<p>P. Annie R. Pentoul</p> <p>M. Georgette Peterson</p> <p>訳 F. Spadavecchia</p>
<p>メキシコ ㊦</p> <p>GRAZIE</p> <p>(Buenos dias, senor sol)</p> <p>ありがとう</p>	<p>P. } Hector Luis Mendoza</p> <p>M. }</p> <p>訳 C. Tosi</p>
<p>スーダン</p> <p>MAGGIO</p> <p>(Majo)</p> <p>五月</p>	<p>P. M. Hameidah</p> <p>M. Tradizionale</p> <p>訳 L. Beretta</p> <p>編曲 B. Mitchell</p>
<p>インド</p> <p>LA PIU' BELLA NONNA</p> <p>CE L' HO IO</p> <p>(Daadi amma daadi amma)</p> <p>1番きれいなおばあちゃん</p>	<p>P. Shakeel Badayuni</p> <p>M. Ravi</p> <p>訳 L. Sterpellone</p>
<p>ポルトガル</p> <p>NELLA BOTTEGA DI MASTRO</p> <p>ANDRÉ</p> <p>(Na loja do Mestre Andrè)</p> <p>マエストロ アンドレのお店</p>	<p>P. } Tradizionali</p> <p>M. }</p> <p>訳 V.S. Vitali</p> <p>編曲 Softly</p>

22° ZECCHINO DORO 1979年11月15, 16, 17日

イタリア曲

題 名	作詞・作曲家
UN BAMBINO バンビーノ (Z)(A)(P)	P. T. Martucci e M. Soldi M. M. Remigi
CHE ROBA, QUEL ROBOT! なんておかしなロボットだ	P. T. Martucci M. Coppola M. N. Aprile
CIP CIU CÌ チプ チューチ	P. } Antonella Bottazzi M. }
HANNO RUBATO IL VOCABOLARIO 彼等は辞書をぬすんだ	P. Nilema M. M. Pagano
GIOOO DI PAROLE 言葉あそび (はや言葉)	P. L. Beretta M. G. B. Martelli
ULULARI ULULALA ウルラリー ウルララ (NHKみんなのうた 双子のオオカミ大冒険)	P. } W. Valdi M. }

応募総数 139 入賞曲 6



外国曲

題 名	作詞・作曲家
ルーマニア ㊤ UN SOLE TUTTO MIO (In Tabara) 私だけの太陽	P. Georgeta Mararu M. Ale Pascanu 訳 W.Valdi
アルゼンチン I RE MAGI (Los Reyes Magos) マギの王	P. Felix Luna M. Ariel Ramirez 訳 L.Sterpellone
アメリカ SAN FRANCISCO (San Francisco) サンフランシスコ	P. Harry Carlton M. Harry Condor 訳 Screwbal e B.Fichera
スウェーデン MAMMA FOLLETTA (Trollmors Vaggsång) 妖精のママ	P. } Margit Holmberg M. } 訳 G.Calabrese
パキスタン TERRA MIA (Sohni dharti Allah rakkhe Beautiful land, may God protect you) わたしの祖国	P. Masroon Anwan M. Sohail Rana 訳 C. Tosi
エチオピア LA MAMMA SA, LA MAMMA E... (Qelnu derfi ade smu Come Children and listen to a mother's song) さあ いらっしゃい 子供たち 母さんの歌をききましょう	P. } Tradizionali M. } 訳 G.Caabrese 編曲 G. B. Martelli

23° ZECCHINO D ORO 1980年11月20,21,22日

イタリア曲

題 名	作詞・作曲家
BANJO BLU                    ㊤ 青いバンジョー	P. C. E. Trapini e Ruju M. De Scalzi
LA VERA STORIA DI ROCK E ROLL ロックとロールのものがたり	P. Danpa M. C.Valle
COL PIANOFORTE IN SPALLA 旅音楽師ミケーレ	P. V. S. Vitali M. G. B. Martelli
LA MIA DOLCE NELLI いとしい ネリ	P. M. Soldi M. M. Pagano
È TUTTO UNO SCHERZO ぜんぶ 冗談	P. Loredana Sabbi M. M. Pagano
MA CHE FEBBRE DISPETTOSA なんていじわるな熱	P. V. S. Vitali M. C. Castellari

応募総数 139    入賞曲 6

外国曲

題 名	作詞・作曲家
ポルトガル HO VISTO UN ROSPO (Eu vi un sapo) ひきがえるをみた	P. Lúcia Carcalho M. César Batalha 訳 E. Parazzini
オーストリア BALLATA TIROLESE (Bei schona Sommazeit) チロルのうた	P. } Tradizionali M. } 訳 Danpa 編曲 Softly
ブルガリア IL VIOLINO DI ANGIOLINO (Zigular kjesca Nekrani) かわいい天使のヴァイオリン	P. } Tradizionali M. } 訳 L. Beretta 編曲 G. B. Martelli
コロンビア FELICE CON LA MIA MAMMA (Soy muy feliz) ママといっしょで幸せ	P. Vincenza Rivas M. Henry Rivas 訳 L. Sterpellone
セネガル L'AMICO MIO PIÙ AMICO (Linguere Khady Thiam) 友の中の友	P. } Tradizionali M. } 訳 Giorgio Calabrese 編曲 G. B. Martelli
中国 MARCO POLO マルコ ポーロ	P. } Tradizionali M. } 訳 Luciano Beretta 編曲 G. B. Martelli

24° ZECCHINO D'ORO 1981年11月19,20,21日

イタリア曲

題 名	作詞・作曲家
ZIA NENA ① ネナおばさん	P. L. Beretta M. G. B. Martelli
NINNA NANNA MALANDRINA いたずらっ子の子守り歌	P. V. S. Vitali M. M. Remigi
LA BABY RADIO ベビー ラジオ	P. Sauro Stelletti M. C. Castellari
MA CHE MAGIA! 魔法	P. V. S. Vitali M. C. Castellari
PER UNA FRITTELLA ドーナツのためよ	P. Mare Soldi M. N. Aprile
LA PIRAMIDE ピラミッド ②	P. Visevi M. Softly

応募総数 117 入賞曲 6

外国曲

題 名	作詞・作曲家
<p>アメリカ ㊷</p> <p>A MOSCA CIECA</p> <p>(Shoo, fry)</p> <p>しいつ, はえ, しいつ</p>	<p>P. } Tradizioali</p> <p>M. }</p> <p>訳 Caperdonie A. Bertoni</p> <p>編曲 Sergio Parisini</p>
<p>ウガンダ ㊸</p> <p>MAGUNDA</p> <p>(Embuzzi Zinalira Wa?)</p> <p>マグンダ</p>	<p>P. } Tradizionali</p> <p>M. }</p> <p>訳 Giorgio Calabrese</p> <p>編曲 Claudio Valle</p>
<p>スペイン</p> <p>UNA MELA A METÀ</p> <p>(Los Abuelos)</p> <p>りんごの半分</p>	<p>P. Eudaldo Dergado</p> <p>M. July Murillo</p> <p>訳 L. Beretta</p>
<p>フィンランド</p> <p>IL FABBRO DEL PAESE</p> <p>(Pajalaulu)</p> <p>村のかじやさん</p>	<p>P. } Tradizionali</p> <p>M. }</p> <p>訳 A. Tasta</p> <p>編曲 Softy</p>
<p>ポルトガル</p> <p>UN GALLO DEL PORTOGALLO</p> <p>(Os olhos da Marianita)</p> <p>ポルトガルのおんどり</p>	<p>P. } Tradizionali</p> <p>M. }</p> <p>訳 Danpa</p> <p>編曲 G. B. Martelli</p>
<p>フィリピン</p> <p>ITIK-ITIK</p> <p>(Itik-Itik)</p> <p>イティク イティク</p>	<p>P. } Tradizionali</p> <p>M. }</p> <p>訳 A. Testa</p> <p>編曲 A. Guatelli</p>

25° ZECCHINO D'ORO 1982年11月18,19,20日

イタリア曲

題 題 名	作詞・作曲家
FARFALLA IN CITTÀ 街の中の蝶 ㊟	P. M. Soldi M. C. Castellari
IL CHIERICHETTO ㊤ 聖歌隊の子供	P. V. S. Vitali e G. B. Martelli M. G. B. Martelli
LL PIANETA MALLAKA 惑星 マラカ	P. C. E. Trapani M. P. Ruju e A. de Scalzi
LA FELICITÀ 幸福	P. M. Soldi M. N. Aprile
SANTA LU—LUCIA ㊦ サンタ ルー ルチア	P. M. Soldi M. N. Aprile
BAMBINI ATTENTI ATTENTI....! 子供たち 気をつけて 気をつけて	P. L. Beretta M. A. Martelli

応募総数 ・ ・ 入賞曲 6

外国曲

題 名	作詞・作曲家
<p>ベルギー ㊤</p> <p>CHE BELLO—LLO.... !</p> <p>(Trois jeunes filles dans...)</p> <p>だれが一番きれい？</p>	<p>P. } Tradizionali</p> <p>M. }</p> <p>訳 L. Sterpellone</p> <p>編曲 G. B. Martelli</p>
<p>ソヴィエト</p> <p>MUSICANTE GIRAMONDO</p> <p>(Musicant Turist)</p> <p>旅音楽師</p>	<p>P. Beliacov</p> <p>M. Jurij Cickov</p> <p>訳 G. Calabrese</p>
<p>マルタ島</p> <p>IL MERILL TWEET TWEET</p> <p>(IL meril tweet tweet)</p> <p>小鳥のうた</p>	<p>P. } ALfred Sant</p> <p>M. }</p> <p>訳 A. Testa</p>
<p>日本</p> <p>IL PICCOLO PESCATORE</p> <p>(かわいい魚屋さん)</p>	<p>P. 加藤省吾</p> <p>M. 山口保治</p> <p>訳 G. Calabrese</p>
<p>チリー</p> <p>CARNEVALITO CARNEVALÀ</p> <p>(Carnavalito del cienpies)</p> <p>さあ カーニヴァルだ</p>	<p>P. } Carmen Lavanchy Bolsien</p> <p>M. }</p> <p>訳 A. Testa</p>
<p>ハンガリー</p> <p>VANESSA LA FATTORESSA</p> <p>(Jo gazd asszony)</p> <p>ヴァネッサ すばらしい家政婦さん</p>	<p>P. } Tradizionali</p> <p>M. }</p> <p>訳 L. Beretta e A. Bertoni</p> <p>編曲 G. B. Martelli</p>

## 参 考 文 献

- (1) Berardo Rossi  
Notiziario dell'Antoniano 1976-4 L'ANTONIANO P. 2
- (4) STORIA DELLO ZECCHINO D'ORO L'ANTONIANO P. 322-P. 323
- (5)       "       P. 326
- (6)       "       P. 398-P. 339   9   3
- (7)       "       P. 336 P. 354 P. 373 P. 375 P. 427 P. 444 P. 473
- (8)       "       P. 429
- (9)       "       P. 339
- (10)       "       P. 339 P. 398-P. 399
- (11)       "       P. 324 P. 339
- (12) 18° ZECCHINO D'ORO ED. CURCI-Milano P. 13
- (13) 23°       "       P. 27
- (14) STORIA DELLO ZECCHINO D'ORO L'ANTONIANO P. 324
- (15)(16)       "       P. 397
- (17)       "       P. 398-P. 399
- (18)       "       P. 410-P. 414
- Notiziario dell'Antoniano 1980-1 L'ANTONIANO P. 3-P. 10
- (19) 23° ZECCHINO D'ORO ED. CURCI-Milano P. 8-P. 9
- (20) 25°       "       P. 20-P. 21
- (21) V. D'Agostino Schnirlin;  
Nuova rivista musicale italiana 1980-4 ERI P. 609
- (22) Spettacoli 22, 11, 1981
- (23) 河合秀朋：カンツォーネの歴史（1976）キングレコード GXF 31-35
- (24) STORIA DELLO ZECCHINO D'ORO L'ANTONIANO P. 331より翻訳